

2017年4月9日 主日礼拝説教(要旨)

聖書 ルカによる福音書 19章 28～40節

説教 「ろばの子に乗る王イエス」

主イエスがエルサレムに入って行かれるにあたってろばの子に乗られたということは、4つの福音書が共通して伝えています。オリーブ山の麓で、主イエスは二人の弟子を使いに出して言われます、「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、引いて来なさい」(30節)。弟子たちが行ってみると、主が言われたとおりでした。ろばの子をほどこいていると、持ち主たちが「なぜ、子ろばをほどくのか」と言うので、二人はあらかじめ教えられたとおりに「主がお入り用なのです」と答えると、彼らは許してくれたのです。それで弟子たちは、子ろばを引いて来て、主イエスをお乗せしたというのです。

それにしてもなぜ、主イエスはろばの子にお乗りになったのでしょうか。オリーブ山から一旦深い谷を下り、そこからエルサレムに入る道は高低差があつてとても険しいのです。そんなところを馬や籠に乗るならいざ知らず、子ろばに乗って進むのは、歩くよりもかえって面倒です。たぶん横座りされたのでしょうが、それは大人が子ども用の自転車に乗るようなむずかしさがあつたと想像されます。ここで主イエスがなされたのは、昔預言者たちが神から命じられてしたような象徴行為です。つまり、主イエスの到来はゼカリヤ書9章9節が預言していた「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者。高ぶることなく、ろばに乗って来る。雌ろばの子であるろばに乗って」という御言葉の成就だということです。主イエスは武力で人々を威圧し征服する王ではなく、戦車も軍馬も戦いの弓も絶ち、諸国に平和を告げる王だということを表しておられるのです。

弟子たちは、主イエスの奇妙な命令につぶやかず疑わずに従いました。どうなることやらよく分からず、不安だったに違いありません。けれども彼らは「お言葉ですから」と、主イエスの言われる通りに行動しました。すると、すべて言われた通りに実現したのでした。

そこで、弟子たちは主イエスと共にオリーブ山を下りながら、声高らかに神を賛美し始めました。「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光」(38節)。詩編に由来する巡礼歌ですが、ここには詩編にはない「王に」という言葉が付け加えられています。弟子たちは主イエスこそ神の国のまことの王であると明確に言い表すのです。

そして、「天には平和、いと高きところには栄光」という言葉が続きます。これはクリスマス之夜、天使たちが野宿していた羊飼いたちに主イエス誕生の出来事を伝えたときに歌った歌と似ています。「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ2:14)。あのとき天使たちによって歌われたことが、今弟子たちの口によって歌われているのです。すでに天にあるまことの平和を地にもたらすため

に、主イエスは今エルサレムに入って行かれるのです。クリスマスの出来事が明らかになり、実現されるために、主イエスは王としてエルサレムに来られたのです。

新共同訳聖書は今日の箇所の小見出しに「エルサレムに迎えられる」と書いています。けれども、ルカがここで描いている光景は、他の福音書の描き方と少し違っていています。主イエスはエルサレムにまだ迎えられてはいないのです。そして、棕櫚の枝を振りながら、「ホサナ、ホサナ」と歓呼して主イエスを迎える群衆も出てきません。ただ、主イエスに従ってエルサレムにやってきた弟子たちだけが、喜び、神を賛美しているのです。周りの人々からすれば、子ろばに乗って進む主イエスとそれを囲んで喜んでいる弟子たちの一群は、何とも風変わりな一団であったに違いありません。ルカは、弟子たちが主イエスこそまことの王であるとの信仰を告白したところに焦点をあてて、この光景を描いているのです。

ところで、彼らのことを遠巻きに監視していたファリサイ派の人たちは、弟子たちの讚美を聞きつけて、主イエスに「先生、お弟子たちを叱ってください」と言いに来ています。彼らは主イエスに自制を求めます。それは、ローマの官憲がユダヤ人たちの動きに目を光らせ耳をそばだてているエルサレムの都で、来るべき王だとか何だとか、そんな混乱を招くような物騒な歌を歌わせないでくれ、と言いたかったのでしょうか。

しかし、主イエスは「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す」とお答えになりました。主イエスは弟子たちの歌った神讚美は事実であり、これを止めるわけにはいかなないと言われたのです。神と人との平和と和解を打ち立てるために、主イエスはエルサレムに来られ、地上の御業を成し遂げて、神の国の王となられるのです。この地はなお争いと戦いと混乱に満ちているとしても、主イエスは十字架と復活によって、罪と死の力を打ち破られ、神のご支配を打ち立てておられるのです。

弟子たちと同じく、主イエスの御言葉に聞き従う私たち、信仰者の群れである教会は、未だまことの主、まことの王を知らない世の人々の中で、主イエス・キリストの救いと神の打ち立ててくださった平和をほめたたえるのです。私たちを取り巻くこの世の現実には、この讚美と証しを私たちから奪おうとします。私たちも周りの空気を読んで、主を証しし讚美することを差し控えようとするかもしれません。だが、私たちが黙れば「石が叫び出す」と主イエスは言われます。私たち以外の誰が、教会以外の誰が、主イエス・キリストによって神がなしてくださった大いなる恵みを取り次ぐことができるのでしょうか。苦難と栄光の主、まことの王に召し出され、このお方に従う私たちの使命を再確認したいものです。